

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 議員おっしゃるように、市史編さん事業を進める上で、状況が本当に今、調査しやすいものになっているというお話でございますので、調査の対象にすべきものでないかというふうに思っております。また、その価値についても見直していく必要があるというふうに思います。

今ご指摘の、ご提案の市指定の文化財としての指定については、市史編さん事業における調査の中で、嘉永堰、そして昭和堰の土木遺産としての学術的な価値を精査していただいた上で検討すべきものでないかというふうに思っております。調査の際には議員のご発言にもありました報告書なども参考とさせていただきながら、改めて評価していければというふうに思っております。その上で、文化財調査会のほうに教育委員会から諮問を行い、指定について有識者間でさらに議論を進めていただいて、検討していただきたいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 前向きなご答弁ありがとうございます。

山のとっぺんのほうにあるもんですから、なかなか人に認知されない土木遺産で、これまで日が当たってこなかったということで、やぶの中にあつたから、それも当然かなと思うんですが、ぜひまず新しい市史の調査をしていただきたいと思ひますし、私も協力できるところは現地へ行って荷上げとか、何でも手伝いたいと思ひますので、ぜひお願いしたいと思ひます。

まだ時間ありますが、当局のご協力のおかげで、全て私の質問できましたので、これで終わりたいと思ひます。どうもありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで暫時休憩とします。再開は3時15分といたします。

午後 2時53分 休憩

午後 3時15分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位5番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 本日、最後の質問となります。お疲れではございましょうが、最後までよろしくお願いいたします。

昨年初めてこの壇上に立たせていただいて、ちょうど1年になりました。あのときの緊張は今でも忘れられません。この思いを忘れずに、長井市のために頑張りますのでよろしくお願いいたします。

このたびの熊本県熊本地方を震源とする地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

私が3月の定例会において、熊本に帰省したときの上空からは、穏やかな日本列島と話をさせていただきましたが、皆様のお手元に配付させていただきました、ちょっと見づらいと思ひますが、主人が熊本県の益城町上空から撮った写真です。この青いのは全部ブルーシートだそうです。このように一面にブルーシートの光景が見られて、いつ、どこで、どんな災害が起こ

るのか予測できない世の中です。備えあれば憂いなし。長井市においては、どのような対策をお考えでしょうか。

それでは、通告書に従いまして質問させていただきます。

第1項目、西山の葉山連山は、過去に起きた何回もの活断層の地震によりできた断層崖の山です。標高差約1,000メートルの東北でもA級の断層崖と言われています。ちょうど市民西根体育館の真下に活断層があるわけですが、耐震補強もなっていない施設に対しての対策はどのように行っていくのでしょうか。また、市民平野体育館も危険度が高いとされています。市民平野体育館は活断層からどれくらい離れているのか、同じような危険がないのでしょうか。対策を講じていく必要があると思います。市長はどのようにお考えでしょうか。

熊本県の例をとりますと、地震発生から約2カ月でようやく仮設住宅に入居できたようです。避難所に指定されていても避難できない状況にならないか、苦慮されます。そのような避難所はありませんか。また、仮設住宅建設予定の場所などは考えておられるのでしょうか。活断層との距離は十分にあり、建設できる可能性は高いのでしょうか。また、災害がもしも起きたと想定したとき、1番に市役所が機能しなければパニックになることと思います。災害後の庁舎の機能を考えた場合、私はまず第2庁舎の移転を第一に考えるべきだと思います。場所としては、午前中、五十嵐議員の質問の中にもありましたが、ヨークベニマルの跡地と市長のほうでは考えていらっしゃる。前の議会でもありましたが、私は早急に移転すべきだと思います。山形新聞でも報道があったように、議会と市当局がやはり同じラインに立って、同じラインで進んでいくことが私は大切だと思いますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

第2項目、商工観光課長にお伺いいたします。

4月より、やまがた長井観光局が設立し、約2カ月がたつわけですが、誘客の成果はどうでしょうか。新しい商品の売れ行きはどうだったのでしょうか。特に目玉商品は何かあったのでしょうか。それに対してのボランティアガイドの対応はできたのでしょうか。長井市において、長井黒獅子の里案内の方が対応しておられます。平成26年の資料ですが、会員約30名のガイドの中で、年間の案内は延べ、さくら115人、つつじ31人、あやめ149人、年間通して、おさんぽ定期便や雪灯り回廊など198人と、毎日のように案内をしておられます。今後のボランティアガイドの位置づけ、高齢化に伴う人材の確保はどうなののでしょうか。市長にお伺いいたします。

第3項目、私は先日、ボランティアで白つつじ公園にてお客様をご案内させていただきました。ことしは雪が少ないせいもあったのか、白一面に咲き誇ったつつじが見事でした。その公園の中での出来事ですが、お客様が段差につまずいてけがをされてしまいました。そのときはすぐに商工観光課で対応していただきましたが、つつじ公園を歩いてみたら、何と段差の多いこと。お客様は年齢の高い方、ベビーカーが多いことから、バリアフリーの公園を目指さなければならないのではないのでしょうか。車椅子、ベビーカーのスロープ、車椅子の置き場など、いろいろ工夫する必要があると思います。市立図書館前の通路もケヤキの根が道を盛り上げ、通行するのが危険になっています。市長はどうお考えでしょうか。

また、長井市にはすばらしい花の公園が2つもあるのにもかかわらず、何回も言うようですが、まず市民が足を運ぶことから観光は始まるのではないのでしょうか。先日、あやめ公園の除草作業を行ったわけですが、市長が先頭になって、多くの市民の方がボランティアに参加されました。市民の皆さんの公園だということの意

識を高めるためにも、私は評価したいと思います。一人一人が愛着を持てるような、子供たちが公園に行こうと言える公園にしたいものです。私たちが子供のころの公園に復活したらいかがでしょうか。露天商も魅力の一つではないでしょうか。ファッションだって時代は繰り返します。公園も繰り返してはどうですか。つつじ公園の遊具、あやめ公園の高台の遊具も、花の公園とともに遊び場として大切な公園だと思います。

また、公園の管理についてですが、年間を通じた花の管理はどのようにしているのでしょうか。作業員だけでできているのでしょうか。ことしのあやめ公園のように雑草がはびこってしまった状況を見ると心配です。今述べたことも含めて、今後の改造計画の中で検討されてはいかがでしょうか。市長のお考をお聞きしたいと思います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご答弁よろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**洪谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** できるだけ簡潔に答弁したいと思いますが、少し考え方で違いがあるところにつきましては、理解を深めるために、議論を深めるために、丁寧にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。余計なことはできるだけ言わないようにいたします。

まず最初に、活断層の対策は十分なのかということを含めて、7点ほど私の答弁がございません。

まず1点目でございますけれども、今さら申し上げるまでもなく、長井盆地西縁断層帯につきましては、地震の確率が今後30年以内、7.7のマグニチュードの発生率が0.02%以下で、100年以内で0.1%以下ということで、私どもとしては少し安心しておったんですが、やっぱり

熊本も今回、活断層型の震災ということで、もう非常に確率低いところが震災に見舞われましたんで、私どもも非常に危機を感じております。6月の11日、山形新聞の記事で一面にこういった地図が載りまして、30年以内に確率が上昇するところということで、色分けして日本全国示されました。その中で、やっぱり静岡から四国の東海、東南海首都圏が30%から100%ということで非常に確率が高くなっていると。一方で、私どものほうは幸いにも確率が高い地域としての掲示はなかったんですけれども、油断できないというふうに思っています。

お尋ねの西根体育館でございますが、市のほうから議会の皆様にも文教常任委員会等々、総務常任委員会等々でお話しさせていただいているかと思っておりますけれども、活断層の真下にごさいますして、西根体育館の経過については、鈴木議員ご存じだと思いますが、西根小学校を改築する際に新築といいますか、別の場所に建てますんで、改築と新築がまざっているんですけども、その際に、前の西根小学校、昭和36年だったと思いますけれども、建てた体育館をもったいないということで使えるだけ使いたからという地元の要望に答えて、あれを市民西根体育館というふうにしてるところでございます。これは、同じように平野小学校の体育館も同じ経過があると思っております。建設時期も同じように、三十五、六年前後でございます。

ただし、平野小学校の体育館につきましては、活断層から1.7キロ離れているということで、現状としてはそういう状況なんですけど、平成25年の9月に長井市の体育施設整備計画に関する検討委員会というものを、最終的に検討結果の報告書を出していただきました。それによりまずと、まず使えるだけ使おうということで、10年間をまず使えるように必要な屋根の雨漏りするところの改善であったり、必要なところを若干手直ししたと。10年間使ったら、あとは使用

しないということできたんですが、やはり地元の皆様から見れば、今使っている団体の皆さんが、今度はじゃあどこでスポーツすりゃあいいんだということで、これはぜひ建ててほしいというご要望がございました。しかし、市といたしましては、今後人口が減少していく中で公共施設がどんどんどんどん古くなって、なかなか新しく手直しできないそんな状況の中で新たにつくらなきゃいけないものもあると。

例えば、要望の強い、冬でも雨の日でも、軽スポーツ、グラウンドゴルフとかペタンクとか、あとはゲートボールができるようなもの、あと、若い人から見れば、フットサルとかテニスとかできる、そういう屋根つきのスポーツ施設が欲しいということやら、スポーツジムが気軽に安くできる場所が欲しい。また、子供の遊技場所も欲しいと、やはり雨の日とか冬遊べる施設ですね、そういったことが新しいものでございます。そういったときに、それぞれの地区に体育館をもう一回つくるというのは、これは不可能だろうと。後ほどお話ししますが、やっぱり市役所なども新しく建てざるを得ないと、そういうことから、これはとりあえず10年間の中で、次にどうするかということを検討していこうというのがその当時の考え方でございました。

西根の皆様からは、やっぱり一部、それでは納得できないというお話があったんですけども、今回の場合は、まずは直下ということなものですから、私どもとしては、これ使用は禁止すべきだろうと、西根体育館については思っております。

その代替として、じゃあどうするんだということについては、西根小学校が隣なわけですけども、夜間など、あと休日なども使っていない時間帯が結構あるということでございますので、まずは今の市民西根体育館を使っておられる団体にお話しするとともに、まずは中学校で使ってるケースもあったので、それを小学校のを使

うということで調整を図っていただきました。今後の話し合いで利用される団体の皆さんにどのような形で、できるだけ不便をかけないで使えるやり方を検討してもらいたいというふうに思っております。

2点目の仮設住宅建設の予定地ということでございますが、これは一昨年の春にオープンいたしました学習プラザ運動公園というのは、整備した6.2ヘクタールのうち全体を防災機能つき都市公園ということで整備させていただきました。これは国の補助事業を受けてやったのですが、例えば多目的広場というのは、わざと、要望はいわゆる人工芝のコートが欲しいという要望でございましたけども、これは防災機能ということは、そこの多目的広場に今芝生を植えているところですね、これがいわゆる仮設住宅地の用地ということでございます。あとは陸上競技場の中のフィールドも、これは認定を受けるには天然芝じゃないとだめなんですけども、ここも仮設住宅をつくることのできる場所ということで、400戸ほど仮設住宅を建てられるところというふうにしております。

長井の今避難所の中で、一番水害も、あと地震の被害も安全なところということで、生涯学習プラザが一番だということで、そこを設定したところです。

したがって、長井市と西置賜行政組合と長井警察署、3者で学習プラザ、最終的な、何ていうんでしょうかね、避難の拠点になるように、あるいは防災の拠点になるようにということでいろいろ結んでいるところでございます。

なぜ学習プラザに選んだかということなどはいろいろございますが、説明しますと長くなりますので割愛させていただきますが、なお、活断層からは3キロ離れているということで、比較的安全なところだと、長井市内ではですね、比較的というか、最も安全な場所の一つだろうというふうに思っています。

続きまして、3点目の市庁舎の災害対策ということでございますが、ご承知のとおり、市役所は昭和33年に建設されておりますので59年目の建物ということでございます。平成24年に耐震調査を行ったところ、構造耐震指標、I s 値という言い方をしていますが、0.11ということで非常に弱い建物だということがわかりました。しかし、すぐに市役所を建てることとか、あるいは別なところに役所を移すということはかなり難しいということから、翌々年度、26年度に耐震補強工事を実施しました。それで、耐震壁や、柱の炭素繊維を巻いて柱を補強する、そういう工事等々を行いまして、I s 値0.6を確保いたしまして、倒壊または倒壊する危険性が低いレベルまで改善しております。しかし、低いレベルということでございますので、これは完璧ではないということですから、応急避難的な対応でございます。

一方で第2庁舎のほうですが、これは議員からもあったんですけども、昭和43年に建てられたということで、それでも49年目ということになります。平成25年度に同じく耐震診断を行った結果、3階の鉄骨部分がI s 値が非常に低いということで、危険性を回避するために、3階の部分に入っておりました建設課関係を、県の西庁舎を借りて現在は事務のほうを行っているところでございますが、3階以外ではI s 値が0.38ということなんですけど、やっぱり倒壊または崩壊する危険性があるということでございますので、これはできるだけ速やかに違うところを探すべきだということで、議員ご指摘のとおり、ヨークベニマルの2階があいているということであれば、そこを活用させていただくのも一つだなと前々から思っておりましたが、今回ヨークベニマルが入っておった、いわゆるタウンセンターの運営主体、あと底地の運営主体である市内の銀行さん、地元長井本店の信用組合さんのほうからぜひ協力してほしいという依頼

がありましたもんですから、議会のほうには詳しい経過の説明はさせていただけなかったんですが、以前から五十嵐議員からもいろいろな提案もいただいておりますので、今回補正予算で、そのまずは設計、というのは、中にどういう団体、あるいはどういう機能の施設を入れるかということにつきましては、建築確認の用途変更が必要なもんですから、用途変更である程度図面を描いて、県のほうと建築確認をして協議しないとなかなか決まらないということで、その部分をまず設計をいろいろ組んでみて、協議をして、最終的には入っていただく団体なども了解をいただいて決めていくということになるかと思っております。

なお、市役所につきましては、27年度まで検討していた結果、案が3案ぐらい併記されておりますが、その中で1番は、この本庁舎を使って、ここを大規模改修と耐震化をしっかりとやって、この近くに第2庁舎を建てて、そして本庁舎と第2庁舎で業務を行っていこうというふうに考えておったんですけど、やはり熊本の大地震以降、少し考え方を考えざるを得ないというふうに思いました。

やはり熊本県の市役所が倒壊したと。また、去年でございますけども、北関東のほうのある市役所、建てたばかりの市役所が去年の集中豪雨で水浸しになったと。そうしますと、ここがハザードマップ上、残念ながら水位がある程度かぶるということがあらかじめ想定されていると、そこに新しく建てていいのかということと、耐震のほう、本庁舎を幾ら新しくしたとしても60年の建物ですから、それをいろいろやっても、もうコンクリートそのものが相当劣化してるだろうと、あと鉄筋なども傷んでるだろうということから、やっぱりここは新たに建てるべきじゃないかというふうなことも可能性としては高くなったと。ただし、これらもそんなに時間をかける、いつ災害が起きるかわかりませ

るので、余裕はないというふうに考えておりますので、何とかできるだけ速くたたき台としての構想を明らかにして、議会、あるいは市民の皆様のご意見をいただきたいと思っています。

次に、4点目のボランティアガイド、やまがた長井観光局についてでございますが、ボランティアガイドの対応についてお答えしたいというふうに思います。

これは議員のほうから詳しくございましたので、内容については割愛させていただきますが、やはり今の時代、20年、30年前の観光とは随分スタイルが変わってまいりましたので、団体のお客様というのはもちろん3分の1ぐらいは、あるいは半分近くは観光地によって主流にはなっておりますけれども、その他家族や小グループという形態になってまいりました。

その中で、ただ、観光地の景観を見たり、あるいは神社、仏閣で楽しんだり、食事を楽しんだりだけということではなくて、次の観光地にまたすぐ行くではなくて、ある程度時間をかけて、そこでじっくり地元の食文化か歴史とか、あるいは地元の人と触れ合うような、そういったものが求められております。やまがた長井観光局もそういう商品づくりを中心にいろいろ開発しておりますが、そんな中で、ボランティアガイドってというのは必須条件といいますか、地元の皆様と語り合うというのはボランティアガイドを通じてが一番でございますので、ですから、山形鉄道の、もう今から10年前からやっている方言ガイドが当初人気だったというのは、やっぱり地元の方言を聞けるという、外から来た人の地元との触れ合いを感じる、そういう商品だと思っただけですね。したがって、観光ボランティアガイドについては非常に重要だと。

ただし、議員からもありましたように、高齢化が進んでおり、また、なかなか募集しても新入の会員の方がふえないということで、その問題は、やはり私ども市のほうから、あるいは観

光協会のほうからの関係構築が少し物足りないというかな、ボランティアガイドの皆様から見たら、ちょっとなかなか活動しにくい状況にあるんじゃないかと思っております。

ですから、考え方としては、市のほうからボランティアガイドという業務委託を黒獅子の里案内人に受けていただくような、そういう格好が一番いいのか、あるいは、その都度その都度、例えば費用弁償的なものをこちらのほうで持たせていただいて、実績に応じて支援させていただくというほうがいいのか、その辺のところはやっぱり私どもではなかなか一方的には積み切れないなど。事務局は私どもで預かっているんですが、やはりもう少し本音の部分でお話しして、どうしたら新しい会員を募ることができるのか、応募していただくことができるのか、また、やっていただいている方たちが満足して、やりがいのあるそういう仕組みをどうつくるかということ、ぜひやまがた長井観光局も含めて検討してまいりたいと思います。

次、5番目ですが、バリアフリーの公園を目指してということをお答えを申し上げたいと思います。

これらについては、なかなかこの部分がちょっと難しく、次の花の管理はどうなのかということと、それから、市民に愛される公園にするにはどうしたらいいのかということでございます。

バリアフリーの公園については、確かにあやめ公園もつつじ公園も、バリアフリーという部分については残念ながら欠けている部分がたくさんあると。例えばスロープを設けるところであったり、あとトイレなどは新たなところについては障害者用のものを設置したりしておりますが、全体的なバリアフリーで公園をもう一回手直しするというのは、今回あやめ公園の都市公園の整備ということで、まずは野球場と、その後、テニスコートやグラウンドなど手がけさ

せていただいておりますが、その後、あやめ公園を改造する予定です。その際にやっぱりやらざるを得ないんだろうというふうに思います。相当細かく見れば、かなりの箇所が課題でございます。

あと、今から20年前に南のほう、高台も含めて改造をしました。これは都市公園としてしたんですが、どうも観光の公園としてやったのか、あるいは単なる都市公園として整備したのか、非常に当時、今から振り返ればですが、当時はそのとおりであったのかもしれませんが、今から見れば非常に中途半端な改造だったのではないかなと思われる節もございます。

ですから、今後改造については、あやめ公園については3年後あたりの着工とか、5年以内あたりの着工を目指して、そろそろ検討委員会、市民の皆様の見解をいただくような、観光関係の皆様的基本的なご提言をいただくような準備を進めていき、その中でバリアフリーというものをやっていきたいと思っております。

あと、つつじ公園は、その後のつつじ公園の長寿命化というのも、これ認定いただいておりますので、その後の整備になるかと思っております。

あやめ公園とつつじ公園の大きな違いは、つつじ公園は割と町の真ん中にありまして、あやめ公園のほうは周りが町には接しているんですが川沿いだということで、ちょっと性格が違っているのかなというふうな感じはしますが、どちらも市を代表する市民のシンボルのセントラルパークという意味がございますので、これらについての整備については、ちょっとなかなか花の公園というところが難しいですね。

いわゆる都市公園で市民の皆さんの憩いの場所だということに加えて、その時期は花観光で多くの観光客にお越しいただくということの公園も兼ねているものですから、非常にここが扱いは難しいというふうに思います。

なお、つつじ公園のほうもあやめ公園のほう

も遊具がございますけれども、遊具については危険な遊具ということで一部撤去させていただいたものもあるんですが、今後はあやめ公園もつつじ公園のところも、今の程度ぐらいの遊具にさせていただきます、新たに考えております3年後、4年後あたりに着工を目指そうとしている中心市街地活性化基本計画の中に入っているグンゼさんと、あと、現在ですと協同薬品工業株式会社さんもお協力いただけるようなお話でございますので、そのところに先ほど申し上げたスポーツ、子供のいろんな遊具施設とか、そういった複合施設と同時に、その中に遊具なども屋外に、相当広いので、場合によっては1万坪ぐらい確保できるんじゃないかというふうに思っておりますので、これは最大でございますので、どこまで確保できるかですけども、その中に南陽市の花公園のような、周りも公園としても散策できると、そこに遊具なども本格的なものを置いていったらいいんじゃないかと。どうしてもあやめ公園、つつじ公園は中途半端になってしまうと。面積的、土地の関係からそう思っておりますので、それらについては、場合によっては少し更新させていただきながら考えてまいりたいと思っております。

そして、花の管理と、それから、やっぱりファッションのように、昔のあやめ公園みたいなものももう少し工夫したらいいんじゃないかと、市民に愛される公園にはどうしたらいいかということでございますが、まず、あやめ公園については、経過はお聞きなってると思うんですけども、20年前に大規模改造する際に、高台とか總宮神社の周りに露天商が、あるいは今の北の駐車場のあたりではさまざまな興行が、あの高台もそうですけども、行われておりました。少しずつ毎年違った記憶もあるんですけども、ただそれが地元の露天商の中でかなりトラブルになって、それが続いたということで、長井市としてはもう露天商は要らないという当時の判

断ですね、それで締め出したわけですね。

ところが最近、6年ほど前ぐらいから、あやめ公園の100周年を機に観光協会と観光協会を応援していただいている皆様でやっぱりにぎわいをつくれないとだめだということで、露天商の方々に交渉をして、場所がないもんですから、あやめ公園の中でやっていただいているということなんです、どちらかという、もうからないということ、かなり嫌がっているのをまずお願いしてやっていただいているようでございます。つつじ公園と違ってもうからないという話だそうです。

ですから、どういうふうになにぎわいをつくっていくかということですが、その辺については、ちょっとこれはあやめ公園の改造のときに考えるしかないのかなと、やっぱり昔と違って、あやめ会館ももう二昔前ぐらいの施設ですし、地元の料亭っていいですかね、会社に運営をお願いしてましたけども、もう断られて、何とか隣のほうからご協力いただいとるということであったり、あと、風情がなくなって、何というんでしょうか、畑のようになってしまったとか、たくさん反省点があります。あと、あやめ公園の周りには料亭がいっぱいあったんですけども、全部なくなってしまったと。ですから、もう明らかに変わってきてるということで、これからどういうふうな公園にしていったらいいかというのは、非常に観光と市民に愛されるというのは、議員おっしゃるとおりなんですけども、市民が求めている公園、あるいは時代に合った、外からの人にも楽しんでもらう公園であやめ公園をどうするか、つつじ公園をどうするかということをやっぱり議論していかなきゃいけないんじゃないかなと思います。

ちょっと長くなって恐縮でございますが、議論の足りない部分については再質問でいろいろご提言いただければというふうに思います。以上でございます。

○渋谷佐輔議長 手塚慶一商工観光課長。

○手塚慶一商工観光課長 それでは、私のほうから、第2項目のやまがた長井観光局について、その中の(1)の誘客の効果はどうかにつきましてご説明申し上げます。

4月からやまがた長井観光局が設立し、観光ポータルサイトの運営、ガイドマップの作成、新聞等による情報発信を行いながら、滞在交流型の旅行商品、日帰り、それら商品12商品と1泊の3商品で合計15商品、置賜さくら回廊に合わせたものとして地域連携型の商品が1商品と、大手旅行会社と連携したタイアップ商品が1商品で、全て合わせて17商品を販売いたしました。

直接の団体からの申し込み、また、ポータルサイトからの情報や問い合わせ等もあり、この2カ月間の効果としては2,000人ぐらいの増加と1,200万円ほどの経済効果があったと考えられます。

新しい商品につきましては、町歩きを十分取り込み、魅力ある商品づくりをしておりますが、やまがた長井観光局がスタートとして間もないこともあり、認知度がまだ低いと考えられます。

現在、県内、県外の駅や旅館など営業をかけて旅行商品のPRに務めておるところでございます。

17商品の目玉商品といたしましては、地域連携の「ワンコインバスの旅」と「舟運文化の面影あら町歩きと長井舟運御ちそう膳」と考えております。ワンコインバスの旅については、置賜さくら回廊に合わせて南陽一長井間、長井一白鷹間を二次交通といたしまして、格安のバスに乗ってもらい、桜の後にあら町の商店街をめぐる旅として71人の参加をいただきました。

もう一つは、町歩きとごちそう膳を合わせたもので、あら町をめぐる後にやませ蔵でオリジナル弁当を食べていただく企画で、北九州からの参加の方も含めて11名の参加で大変好評を得たところでございます。

また、あやめのほうも見ごろになってきておりまして、誘客事業としてのバスの申し込みの申請も順調に出てきており、今後もオール長井で企業や店舗、団体、市民が連携し、地域資源を生かした旅行商品づくりによる誘客促進を考えております。

私からは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 丁寧なご答弁、大変ありがとうございました。

市民西根体育館の件について、やはり使用禁止という市長からの言葉が出るかなと思ったんですが、地元としても、使用禁止っていきなりこうなられても困るので、やはり地元ときちんとした形で話し合いしながら、ぜひ安全な方法でいけるように対策をお願いしたいと思います。

私が思うのは、複合施設ということで、駅前の方に市長が思ってたんですけど、屋根をかけた複合施設を、古代の丘とかやっぱり活断層が近いから危ないんですが、北のほうの成田工業団地のほうに持ってくるということも私は考えていただきたいなと思ってる所でした。これは皆さんと話し合いながらいくべきなので、ここでご答弁を求めてもしょうがない、いいですか、じゃあその点についてよろしくをお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

鈴木議員がおっしゃることはよくわかりますし、西根の女性の皆さんとの懇談会、意見交換会とかの中でも何回か、例えば文化会館なんかを新しく建てるんだったら北のほうに持ってきてもらいたいというようなお話がございました。それは気持ちとしてはよくわかるんですが、私ども、中心市街地活性化基本計画というのを立てました。基本的に、これから残念ながら少なくとも50年ぐらいは人口が減り続けることは間違いないわけですね。で、公共施設をまた郊外

につくってしまいますと、より経営的に、運営的に厳しくなると思ってます。

今回、公共の複合施設やスポーツ施設というのは補助事業で建てる考えでおりまして、45%、直接的には補助を受けられるような、今回の観光交流センターなんかもそうですけども、そのさらに進んだ形の補助事業です。やっぱり半分近く、実質的には6割、7割近い補助になるんですよね、後で交付税措置がありますから。それはやはり中心市街地の中だからこそ補助が受けられるということもありまして、残念ながら、例えばそれが私の地域である豊田につくるといったら何やってるんだと言ってもいいんですが、そういうことではなくて、あくまでもやっぱりコンパクトシティ、そして周りの5つのところは小さい拠点をしっかりとつくって、バランスのよい長井市をこれからも培っていかんだということでございますので、ちょっとそこところは、正直なところなかなか難しいというふうに思います。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** はい、大変わかりました。皆さんでとにかく話し合いをしながら、そういう施設を早目に建てていただきたいと思えます。

ボランティアガイドについて再質問させていただきたいのですが、今現在、私30名と言いましたが、実質回っているのが約10名です。商工観光課長がおっしゃったように、すごくニーズが高いと思います。ですから、市のほうでガイド課などを設けていただいて、一本窓口をつくったらいいのではないかと私は思うんですけども、ガイド係という観光局の中に一つを設けるか、また、有償にして、保育園にお子さんを預けた後のお母様方とかに募集をなさって、2時間、3時間の時間なんです、1日のうち。そうする方法もあるのではないかなと私は思いますが、市長、どうでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

鈴木議員がおっしゃること、よくわかりまして、例えばあやめの期間中ですと、茨城県の潮来市が同じアヤメでいろんな交流とか、この間もあやめサミットがあったんですけども、あそこの場合、あやめ娘というのを、私ども1人なんですけども、公募して、現在20名ぐらいあやめ娘がいるんだそうです。その方はちゃんと審査して20名選んでるという言い方をされてましたけども、1日の日当1万円だそうなんです。そのシフトを組んで、いらした観光客の皆さんと一緒に案内もするし写真も撮る、浴衣を着てですね、そういうようなことをなさってる。これは私は一つのヒントだろうと思ってたんです。

ただ、難しいのは、今ボランティアガイドの皆さんでボランティア精神でなさってるものから、それを仕事として受けてもらうというのは抵抗あるのかなということ、先ほど言いましたように、話し合いをして進めていきたい。

この間、山口県の萩市でフラワー都市交流の総会がございまして、来年は長井なんですけれども、そこに行ったときに、雨の日でしたけども、観光ボランティアガイドというよりもNPOでした。NPOの方がいらして説明をしていただきました、ずっと1日。あれは、完全にプロだなと思いました。これは、もうちゃんと報酬があるんだと思います。でも、それでもやっぱり萩市のほうから何らかの形で委託でやるはずなんです。ですから、私言ったのは、年間、観光ボランティアガイド黒獅子の里案内人となるかどうかですけども、そういったボランティアガイドの事業として委託を受けてもらうと、その中で、そのお金の使い方については、もちろん議会からご了承いただかないとだめなんですけども、報酬として払ってもいいんじゃないかと、そういうふうにしないと続かないんじゃないかなというふうに思ってます、ここはこれから続けるためにどうしたらいいかということ、やっぱり私ども行政だけでは到底無理なので、一緒になってやっていくという考え方、一緒になって仕組みをつくるということが重要だと思ってます。

なお、先ほど答弁の中で、ちょっと一つだけ漏れてしまったんですが、あやめ公園とか公園管理の部分でございますが、現在、市のほうであやめ公園、つつじ公園を初め、市の公園については直接管理しています。作業員の方を直接雇用してるんですが、作業長以外は、ちょっと季節労働者みたいな格好になってるんですね。年間通じて雇用できないということで、これはもう行革だけではなくて、年間を通じての仕事のシステムをまだつくってないからだというふうに思ってますが、そこについては今後課題だと思ってます、雇用の形態とか、あと、報酬とか、そういった運営の中身などについても今後早急に検討して、貴重なアヤメの、特に植栽の技術というのは本当に難しいものから、そういう作業のできる能力がある人を確保していきたいというふうに思っています。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 市長、前向きな答弁、大変ありがとうございます。

やはりボランティアガイドは、最初、ボランティアをやりたいという方がつくられた会なので、すごくありがたくすばらしい会なんです、やはり高齢化が目に見えてます。それで、観光局ができたおかげで、もっとニーズが高いです。やはりまちなか歩き、長井ダムだったり、本当に覚えることが多いので、やはりガイドさんたちと話し合いをして、市のほうでも何らかの形でしていかないと、せっかくの観光がだめになってしまうんじゃないかなと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、公園の管理について今ご答弁いただいたんですが、やはりあやめ公園には古種、長井から発祥した古種が大事に育てられていますので、やっぱり市長がおっしゃるように大切な公園です。それは守り次いでいかななくては行けないと思いますので、私はあやめ公園はあやめ公園だけの作業員がいればいいんじゃないかなと思っております。そのほかは、桜だったりつつじ公園だったり、やっぱり公園の椅子も塗らなくちゃいけないし、そういう作業員の方は必要だと思いますので、ぜひその辺のご検討をお願いしたいんですが、よろしくをお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 作業員については、特に冬の間の仕事がないんじゃないかということなんです。ハウスでいわゆる促成栽培等々で、できるだけ期間中にしっかりと花を咲かせられるような、そういった準備などもありますので、年間を通じて働いていただけるような仕組みをつくらなければいけないと思っています。

あと、ツツジについては、一番難しいのは雪囲いとか、そういったところなんです。剪定については業者さんをお願いしております。あと、桜についても、特に久保桜とか大明神なんかは、もう専門家に任せてるという状況ですけども、やっぱり一番はアヤマだと思ってますので、そこに力を入れていきたいと思っています。

なお、先ほどの、ちょっと足りなかった部分ですが、観光ボランティアガイドの皆さんについて、やまがた長井観光局とも話し合いをしまして、徐々にしっかりとお金をもらおうと。今ももらってる団体と、あと個人、もらわなかったりもしてるんですけども、これをもらっていくと。観光ボランティアガイドの皆さんがちょっと心配なのは、例えば案内してて、観光客の皆さんがけがしてしまったと。そうした場合、誰の責任になるんだということで、さまざまなトラブルになったケースがあるんだそうです。

やまがた長井観光局は旅行会社なものですから、ボランティアをする際に、1人190円ぐらいの損害保険の保険料があるんだそうですね、それに入れてもらうようなことで、同時に例えば1時間で1,000円だとか、そういったところを、旅行会社を通じたところは全部もらえるんですが、個人客をどうするかということなんです。そういったこともしながら、ご本人の保険は今入ってるわけですけども、さまざまなそういった細かなところも、もうそろそろ検討しなきゃいけない時期だだと思いますので、これもじっくりと形をつくっていききたいと思っています。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひ充実したガイドにさせていただくように切にお願いしたいと思いません。

あともう一つお願いなんです。都市公園整備の中にあやめ公園ですけど、これから公園に、何年か後、二、三年後でしたか、入るわけですが、ぜひ売店を優先してというか、売店は都市公園整備の中では売店の建てかえというのでできるんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 都市公園の長寿命化では、そういう施設の建てかえとか、そういったことはできないということになっておりますので、残念ながら売店というのは単独にするか、あるいは民間とかどこかと協働して、長井市の都市公園の中のお店ですから、その辺などはやり方はいろいろあるかと思うんですが、そこについてはやっぱり採算が合うような形での店舗として検討しなきゃいけないと思います。それはぜひ別途、これは絶対必要なものだと思いますので、皆さんからいろいろご提言などをいただいて、検討するべき内容だと思っています。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。ぜひ、あわせてつつじ公園の売店も、あのス

ロープはすごくお客様に失礼だし、雨降ると滑るし、暗いし、公園が無料なので、お客様がいらっしゃるんですけど、売店がどこにあるかわからないような状態なので、その点も合わせてご検討いただければと思います。市長、いかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** やはり売店として、鈴木議員おっしゃるように、つつじ公園のところはちょっと目立たなくて、気がつかないんですね。あとは、アヤメもツツジも、大体祭り期間中、1カ月しかしてないんですけども、そこを何とか、やっぱり年間通じて営業できる、そういったレストランとか売店、ショップにしなきゃいけないんじゃないかなと。非常に難しいんですけども、そうでないと、いや、これは失礼な言い方ですけど、たった1カ月しか開店しないお店に何千万円、場合によっては何億かけるっていうのは、これはなかなか厳しいです。ですから、そこをどうするかっていうのが知恵の、皆さんの市民の力、あるいは議会からも提言いただいて考えていかなきゃいけないのかなというふうに思っているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** いろいろ課題が多過ぎて、やっぱり一生懸命考える必要があると思います。

私はつつじ公園は、市長がおっしゃるように1カ月だけなので、そこに皆さんから募集してテントでもいいのかなと、こう思っております。この前も車椅子の方がいらして、貸していただきって言われたら、上のほうにありまして、端っこの駐車場まで持っていくという本当に不親切な公園だなと、こういうふうに思いましたので、いろんな面で、皆さんもいろんなことで歩いてみたり、私たちもですが、公園のなかを歩いてみたりするといろんな課題が見えてくるので、これからも当局と一緒に頑張ってい

きたいと思いますので、よろしくお願いします。私からは以上です。

散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時11分 散会